



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 28 年 2 月 17 日号



「平成 27 年度 医療安全事例発表会」が開催されました。

平成27年度 医療安全事例発表会

のお知らせ
先日ご案内しました医療安全事例発表会のテーマと発表者が決定しましたのでお知らせします。多数の参加をお待ちしています。

発表者に

1. 5階東病棟 発表者 高橋 義津子
テーマ「地域包括ケア病棟開設後の医療安全について」
2. 臨床工学科 発表者 高屋 裕紀
テーマ「手術室業務におけるMEの安全対策」
3. 4階西病棟 発表者 山崎 悦子
テーマ「無投薬予防のための与薬カートの工夫」
4. 医療安全対策室 発表者 鹿内 純子
テーマ「当院のインシデントの状況と分析」

月日:平成28年1月14日(木)
時間:17:15~18:15
場所:別館2階講堂

・事例発表会終了後は、昨年に引き続き『第3回医療安全スローガン大賞』の発表と表彰式を行います。

医療安全対策室 鹿内

去る、平成 28 年 1 月 14 日（木）当院 別館 2 階講堂において『平成 27 年度 医療安全事例発表会』が開催されました。

発表者の方々は、いかに医療安全対策をしているかという取り組みを細かく説明し、写真や表などで分かりやすく発表していました。また、各事例発表の後には質疑応答の時間もあり、この会の進行役の工藤優委員長や、司会の鹿内純子副委員長が自ら質問するという関心の高さが感じられ、約 60 名の参加者も真剣に聞き入っていました。鹿内副委員長は「皆様の安全対策に対する土壌を作るのが私の仕事です。土を耕して、種をまいて、水や肥料をたくさんやり、しっかり医療安全の基盤を作りますので、皆さんの安全に対する意識を高めて頂ければ幸いです。」と話して事例発表を終了しました。



事例発表終了後の『第 3 回医療安全スローガン大賞』の発表と表彰式では、多数の中から選ばれた 2 作品に、工藤副院長より賞状と景品が授与されました。

月	考案部署	スローガン
1月	リハビリ科	まいった その判断が 事故のもと
2月	医事課	慎重に再確認 それが“事故ゼロへの道”
3月	臨床工学科	思い込み 自己判断せず 必ず確認
4月	医局	確認は 目・耳・頭を フル活用
5月	看護局	緊急時 基本に戻って オーダー確認
6月	薬局	したつもり つもりつもれば 事故おこる
7月	臨床検査科	連絡は 手をとめ 目をとめ 心をとめ
8月	放射線科	過去の教訓 つなげる未来
9月	リハビリ科	かたづけも 転倒防止の 第一歩
10月	栄養科	セット時は 名前とコメント 再確認
11月	臨床工学科	再確認！ 慣れた作業に ミス潜む
12月	医事課	慣れた業務 混んでいる時こそ 要注意



最優秀賞
薬局

『したつもり つもりつもれば 事故おこる』



優秀賞
臨床工学科

『思い込み 自己判断せず 必ず確認』



最後に、工藤優委員長から総評として「事例発表会というよりも研究発表会のように、なかなか良かったです。これを機にさらに医療安全に対する意識の向上をお願いしてこの会を終了したいと思います。」鹿内純子副委員長も「皆さんが頑張ってまとめているあたりを見ても、事例というレベルではなく、素晴らしいまとめをしてくださっていると思いましたので、ぜひ来年度もよろしく願いいたします。お忙しい中、参加していただきありがとうございました。」と締め括りました。



「COPD 予防健康教室」を終えて

リハビリテーション科 理学療法士 清水涼子

2013年4月1日より改正健康増進法が適用され「健康日本21」の新たな目標に「COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度向上」が挙げられました。各自治体の健康政策担当ではCOPD 啓発活動を計画推進しています。六ヶ所村の保健センターでは2年前から健康づくり事業の一環としてCOPD予防健康教室を企画し、私は講師として参加させていただいています。今年度は11月18日世界COPDデーに合わせて六ヶ所村福祉センターで開催し、村民の皆様を対象にCOPDについて講話と簡単な呼吸体操を紹介させて頂きました。高齢者の方々には、最初は難しいところもあった腹式呼吸練習ですが、ゆっくり呼吸する方法を楽しんでやって頂きました。

口すぼめ呼吸の紹介です。



高年齢の方々には、最初は難しいところもあった腹式呼吸練習ですが、ゆっくり呼吸する方法を楽しんでやって頂きました。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは、喫煙等の刺激による肺の慢性的な炎症反応を基本病態とする呼吸器の病気です。日本では2014年に約1万6千人がCOPDで死亡し、日本人男性の死亡原因の第8位を占めています。その主要な原因は、長期の喫煙習慣とも言われています。厚生省2013年国民生活基礎調査によれば、青森県の喫煙率は残念ながら男性が40.3%で全国1位、女性が14.3%で全国2位です。体を動かしたときの息切れや増悪を繰り返すことで日常生活が著しく障害される病気です。早期発見し、重症化を防ぐ治療を早期に開始することが重要ですが、潜在患者約500万人（NICE study）に対し、治療を受けている患者は2011年で約22万人であるとのデータがでています。風邪が長引いて咳がでているだけとか、加齢による息切れなど見過ごされ、治療が遅れることも多いため、上記の症状が長引くときには、かかりつけ医に相談してみるのもいいと思います。「健康日本21」では、COPDに関する正しい知識の普及を通じて国民の健康増進に寄与することを目標に現在の認知度25%を2022年までには、COPDの認知度を80%以上にしようと啓蒙活動しています。私も健康予防教室を通して、より多くの方にこの病気を知っていただき、地域の皆さんの健康寿命を延ばす支援をしていきたいと思っています。

腹式呼吸の紹介です。





外来診療担当医表

外来診療担当医表は随時更新しております。下記のURLからのご確認をお願いします。

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>



「市民健やかゼミナール」開催のお知らせ

市民の皆さんを対象とした、健康について学び気軽に相談できる「市民健やかゼミナール」を開催いたします。当院1階外来待合室を開放し、講演終了後は相談コーナーを設置しますので、皆様の多数のご来場をお待ちしております。

日時：平成28年2月23日（火）16：00～17：00

参加費：無料（車でお越しの方は駐車料金150円がかかります）

場所：十和田市立中央病院 1階外来待合室（整形外科外来前）

講演『健診のすすめ ～がんの早期発見のために～』

講師：院長 丹野 弘晃

がんと健康に関する質疑応答と個別相談コーナー

院長 丹野 弘晃

緩和ケア認定看護師 太田 緑

緩和ケア認定看護師 八重樫 学



ご寄附をいただきました。

去る2月3日（水）に、『十和田市援会（会長：欠畑茂治様）』様より簡易吸入器2台が寄附されました。

『十和田市援会』様には、プルタブ等の収集を基に平成22年からこれまで合計24台の車椅子をご寄附頂いております。今回は、冬期のインフルエンザ治療のために使用頻度が高くなる『コンプレッサー式ネブライザ（簡易吸入器）』をいただき、患者様のために活躍しています。

コンプレッサー式ネブライザ（簡易吸入器）



この活動は、すでに市内近郊では広く認知されており、たくさんの方がプルタブ等を集めてくださっているそうです。職員一同ご厚意に深く感謝申し上げます。

